

自閉症スペクトラム児をもつ保護者と小学校教員の関係構築についての検討
- 保護者へのインタビューを通して -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
藤原 さつき

本研究では、自閉症スペクトラム（以下、ASD）児をもつ保護者は（1）小学校教員の
どういう点を評価し、教員に何を求めているのか、（2）どのように教員との関係を構築し
ているのかについて明らかにすることを目的とし、ASD児をもつ6人の保護者に小学校教
員との関係についての半構造化インタビューを行った。

KJ法を参考にして分析した結果、教員（学校）の保護者に対する行動で評価できる点
として＜入学前のやりとり＞、＜子どもの学校での様子についての報告＞、＜保護者の気
持ちへの寄り添い＞、＜保護者への助言＞の4点が、教員（学校）の自分の子どもに対す
る行動で評価できる点として＜子どもの成長、良いところへの着目＞、＜子どもの特性に
応じた配慮＞、＜集団生活の手助け＞、＜子ども目線、子どもの気持ちや意思の理解、尊
重＞、＜学校（学級）全体で気にかけること＞の5点が、さらに教員の評価できる基本的
な姿勢や人柄として＜一生懸命な姿勢＞、＜公平な関わり＞、＜子ども好きな印象＞、＜
媚びない人柄＞の4点が明らかとなった。保護者は子どもの特性を保護者なりによく理解
しているがゆえの不安をもっており、教員はその不安の理解に努めて保護者を支え、連携
していく必要が示唆された。また、保護者は教員に子どもや保護者に対して真摯に向き合
うこと、その姿勢を具体的な行動で示すことを求めており、いかに子どものことを考えて
くれているかが重要であると考えられた。それに加え、保護者はその一生懸命さが自分の
子どもだけでなく、生徒全般に向けられていることを望んでおり、教員としての専門性以
前に人間性を重視していることが示唆された。さらに、学校全体で子どものことを気にか
け見守ること、教員同士が連携することが保護者の安心につながっていることがわかった。
保護者にとって相談の窓口を必要に応じて選ぶことができるような環境にいることはとて
も心強く、子どもにとっても安心できる居場所が学校の中に複数あることは非常に大切で
あると考えられる。

また、保護者が教員との関係構築において心がけていることとして＜入学前からの関係
づくり＞、＜子どもの様子についての情報提供＞、＜教員（学校）に依存しないこと＞、
＜物腰の低い姿勢、肯定的な気持ちのアピール＞の4点が明らかになった。これらの背景
には子どもに良くしてもらいたい、子どもにより良い環境を与えたいという共通した思い
が存在し、子どもを中心に据えて教員と関わっていることがわかった。教員はこういった
保護者の思いを理解し、子どもを中心に据えて保護者との関係構築、そして連携を図る努
力をしていく必要があるだろう。